



盛岡市プレスリリース

～輝きが増し 活かに満ち 夢をかなえるまち盛岡～

令和8年5月15日
商工労働部
経済企画課

市政記者クラブ加盟社 各位

盛岡市経済産業アドバイザーによる 市長への施策提案等について

盛岡市では、地域産業の振興や活性化の取組に関する知見やノウハウを有する外部専門家の助言を得るため、令和7年度に創設した「盛岡市経済産業アドバイザー」について、令和8年度も引き続き神尾文彦氏へ委嘱を行いました。

この度、神尾氏が市長を表敬訪問し、昨年度の活動実績や所感を報告するとともに、盛岡市における「デジタルローカルハブ」構築に向けた施策等の提案や市長との意見交換を行いますので、ぜひ御取材ください。

記

【職 名】

盛岡市経済産業アドバイザー

【業務内容】

「盛岡市経済産業アドバイザー設置要領」に基づき、市長の求めに応じて、盛岡市における経済の発展や産業の振興等に資する施策等に係る助言を行うもの。

【就 任 者】

株式会社野村総合研究所 研究理事 未来創発センター長 神尾 文彦 氏

【委嘱理由】

官公庁、地方自治体及び公益団体などの調査・コンサルティング業務に長年携わってきた経歴を持ち、経済及び産業に関して幅広い見識を有する者と認められるため。

【訪問日時】

令和8年5月21日（木）16:30～17:00

【会 場】

盛岡市役所本庁舎本館4階 市長応接室（盛岡市内丸12番2号）

【主な内容（予定時間）】

- (1) 令和7年度の活動実績・所感（16:30～16:35）
- (2) 盛岡におけるデジタルローカルハブ（自立経済都市圏）構築の方向性提案（16:35～16:55）
- (3) 令和8年度の活動方針・抱負（16:55～17:00）

【備 考】

- (1) デジタルローカルハブとは、神尾氏が提唱する概念であり、地方圏にあつて国内外の様々な都市・地域と連携した「自立経済都市圏」（＝ローカルハブ）を、デジタル技術の活用により実現する地方創生モデルのことを指します。
- (2) 市長への表敬訪問終了後、同会場において10分程度神尾氏への取材を受け付けます。
- (3) 本件について御取材いただける場合は、下記担当まで事前のご連絡をお願いします。

【担当】

課長 塩田 大輔（しおだ だいすけ）
商業振興係主任 鷹觜（たかの はし）

電話：019-613-8389（ダイヤルイン）

神尾 文彦

研究理事
未来創発センター長

1991年野村総合研究所入社。



長年にわたり、官公庁・地方自治体・公益団体などの調査・コンサルティング業務に従事。専門は都市・地域戦略、公共政策、社会インフラ戦略、政策金融など。

近年は、地方創生、デジタルガバメントなどの領域に取り組み、内閣官房「未来技術×地方創生検討会」委員、岩手県「持続可能で希望ある岩手を実現する行財政研究会」委員ほか、総務省、国土交通省、山形県、山梨県、宮城県、静岡県、盛岡市（デジタル戦略）、鶴岡市、帯広圏など官公庁・地方自治体・商工会議所の委員等を多数歴任。令和5年度岩手県行政経営功労者表彰受賞。令和7年度盛岡市経済産業アドバイザーを歴任。鶴岡市政策顧問、帯広圏デジタルアドバイザー。

主な著書に「デジタルローカルハブ」（中央経済社）、「地域循環型社会の実現に向かって」（リックテレコム）、「デジタル国富論」、「地方創生2.0」、「社会インフラ次なる転換」（いずれも東洋経済新報社）、「東京・首都圏はこう変わる！未来計画2020」（日本経済新聞出版社）など。